



河内長野駅から高野街道、花の文化園散策の記録

- 1: 日 時 2025年4月17日(木) 10時30分集合 参加人数 26名
- 2: 集合場所 南海高野線河内長野駅・近鉄南大阪線河内長野駅前近くのコンビニ前 天気 晴れ
- 3: 行 程 河内長野駅→高野街道標識→長野神社→高野街道→鳥帽子形八幡神社→鳥帽子形城址→大阪府花の文化園(昼食・トイレ・自由観察会)→大阪府花の文化園玄関前集合→道の駅「くろまろの郷」→河内長野駅(解散) 歩行距離7.1km 行動時間 4時間

4: 概 要 河内長野には何度か東高野街道歩きで訪れています。ここ河内長野は東高野街道・中高野街道・西高野街道の3本の街道が合流し高野街道の起点となっておりその標識が駅から少し進んだところにあります。更に進んだところに長野神社があります。江戸中期頃までは木屋堂、牛頭天王宮と呼ばれて、明治元年に長野神社と改称された。またこの地は天見川や石川の合流するところでもあり古くから交通の要所として栄えていました。木屋とは木材の収集場所を意味し2つの河川の上流から切り出された木材はこの地で製材され河川下流の古市や西高野街道を通じて堺に搬送、権門・社寺の集まる京都への出荷されたと考えられます。神社には上部の幹を切られた大きなカヤの木がある。



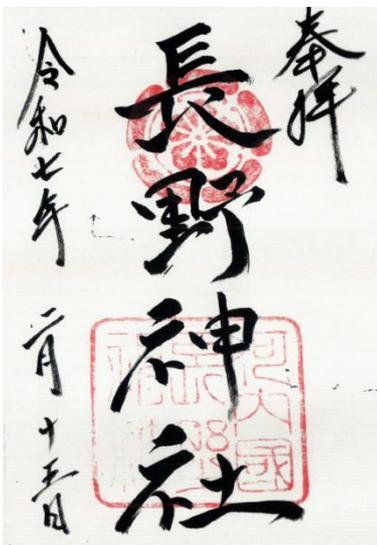
高野街道の標識がある



長野神社



長野神社のカヤの木



長野神社朱印

神社参拝後、高野街道を進み石川を跨ぐ橋を渡り進んで行くと鳥帽子形八幡神社に着きます。この小高い山の上部は戦国時代の鳥帽子形城址となっていました。



大和川より17km



鳥帽子形八幡神社にて

山城の鳥帽子形城には横堀、堀切、土塁、曲輪などがあります。本城には楠木正成が築城した「楠木七城」という伝承や「平家物語」などの軍記物に登場する「長野城」が相当するという説がありますが、明確な資料がないため、築城主や築城時期は不明だそうです。

戦国時代における河内長野市域は河内国の一部で、河内守護職である畠山氏の後継者争いをはじめ、多くの合戦が行われた。鳥帽子形城は河内国の政治と文化の中心であった若江城(東大阪市)や高屋城(羽曳野市)を守るための南の防衛線ともいえる要の城であった。

烏帽子形城址を後にして、進んで行くと今回の主たる目的地である大阪府花の文化園に到着する。入園後、花壇の前で記念写真を撮りました。その後この場所に2時30分に集合することを連絡し、園内で各自昼食及び自由観察することとして解散する。

以下の花は園内で見られた主な花々です。ムサシアブミ、ウラシマソウ、クマガイソウ、イチリンソウ、シャクナゲ、シャクヤク、ユキモチソウ、カタクリ（キバナ）、イスノキ、リキュウバイ等



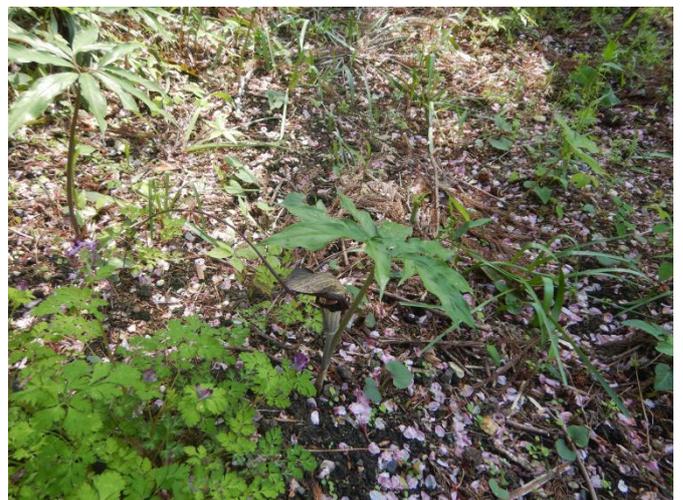
大阪府花の文化園にて記念写真
ユキモチソウ クマガイソウ



ムサシアブミ
キバナノカタクリ



一輪だけあったイチリンソウ



ウラシマソウもありました

約束通り2時30分には全員集合し、バス停のある「道の駅・くろまろの郷」に向かい50分発の河内長野駅行きバス（すし詰め状態になった）に乗車することができました。河内長野バス停で次の連絡等打ち合わせ後、例会を解散しました。

Cグループ担当例会
当日の案内担当 山下
当日の記録担当 李三